

「専攻科福祉専攻の閉科」に寄せて

非常勤講師 野口恵美

「教えることは、学ぶこと」

77歳の今日まで看護・介護教育に関わらせていただいた私の思いです。もし、介護の学生に接しなかったら、私は医療の看護のみの体験に終わっていたでしょう。

介護教育に関わらせていただいて、何かが変わったのです。

それは何でしょうか？

病院の看護をしていた私は、患者・家族の皆様から学ばせていただきました。病気を持つ人間を看護するということは、病気の知識だけではなく、病気を持つ人間とのお付き合いをすることになるため、自分の知識や体験の限界を感じました。雑誌・新聞・書物では学びきれない多くの患者さんや家族との出会いがありました。

豊橋創造大学短期大学部専攻科福祉専攻では、以前私と同じように医療現場で看護師としていた科長の大林氏との出会い、介護福祉士教育に携わり、看護教育にはない魅力を感じました。今では、専攻科福祉専攻の非常講師の立場から養成教育の学会に参加し、本当に社会のニーズの高い介護の教育の重要性とその価値を看護教育側にも知らせたくくなりました。

専攻科福祉専攻では、コロナ禍で遠隔授業に大変苦慮しました。

しかし、看護・介護等は、対面でしか伝えきれないことがたくさんある！と改めて感じました。将来、介護を受ける身として、いかに、人と人とのぬくもり、やさしさ、思いやりを持ち続ける人材が必要かを実感しています。専攻科の学生はそんな素晴らしい人材に育つと信じています。

教えることは、学ぶこと、そんなことを77歳まで感じられる機会に出会えた専攻科福祉専攻に感謝しています。ありがとうございました。